公立大学法人 福島県立医科大学附属病院　患者サポートセンター

2023 6月

患サポ通信

ーささえちゃん便りー

第 110 号

梅雨明けを心待ちにする日々でありますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。
今月号では、脳神経内科をご紹介いたします。

脳神経内科のご紹介

脳神経内科では脳、背髄、末梢神経、筋肉などに起きる病気を幅広く診療しています。症状は、本当に様々です。頭痛、けいれん、めまい、しゃべりづらい、力がはいらない、しびれる、ふるえる、歩きにくい、ものわすれ、本当にいろいろです。一般のクリニックや病院で原因がはっきりしない、あるいは、治療の難しい患者さんが、福島県内各地から紹介され当科を受診されています。

今回は、脳神経内科領域における最近の治療の注目話題を二つほどご紹介します。

一つ目は片頭痛の治療です。片頭痛はズキン、ズキンと拍動するような頭痛であり、20歳から 40 歳の働き盛りの女性に多くみられます。市販の薬で対処できることもありますが、程度が強かったり、頻度が多かったりすると、日常生活や仕事に支障をきたします。ただし、周囲からなかなかそのつらさを理解されず、がまんしている場合があります。このつらさが日常化すると、本当はつらい自分にきづかないことがあるといわれています。最近、片頭痛の予防薬として、抗 CGRP 製剤、抗 CGRP 受容体製剤という注射薬ができました。1 ヵ月に 1 回皮膚に注射することで、片頭痛の程度と頻度が軽減し、長年の頭痛から解放される方がいます。われわれもこの治療が始まってから、想像していたより効果があり、喜ばれる患者さんが多いことを実感しています。多くの患者さんに知ってほしい治療です。

二つ目は神経免疫疾患に対する新しい治療です。神経免疫疾患は体内の免疫機能の異常により、脳、背髄、末梢神経、神経筋接合部、筋肉などにおきる病気です。代表的な脳、背髄の病気として多発性硬化症、視神経背髄炎スペクトラム疾患、そして、神経筋接合部（末梢神経と筋のつなぎ目）の病気として重症筋無力症があります（裏面 図 1）。

この数年で急速に治療が進歩し、新しい分子標的薬とよばれる薬ができました。分子標的薬は、病気の原因となっているタンパク質などの特定の分子にのみ作用するように設計された薬です。分子標的薬により免疫系の一部に選択的に作用し、しっかりとした効果を示し、これまで主体であったステロイド薬の減量、中止が可能になりつつあります。下の図にはここ数年で可能になった治療薬を示しました（裏面 図 2）。

治療薬がたくさんできていることが一目瞭然と思います。（裏面に続く）

以上、当院の脳神経内科では、片頭痛のような多くの方が悩む病気から、神経免疫疾患のような稀な病気まで、新しい治療を積極的に行っている福島県の代表的医療機関です。皆さまの期待にこたえられるように尽力してまいりますので、よろしくお願い致します。

【脳神経内科】

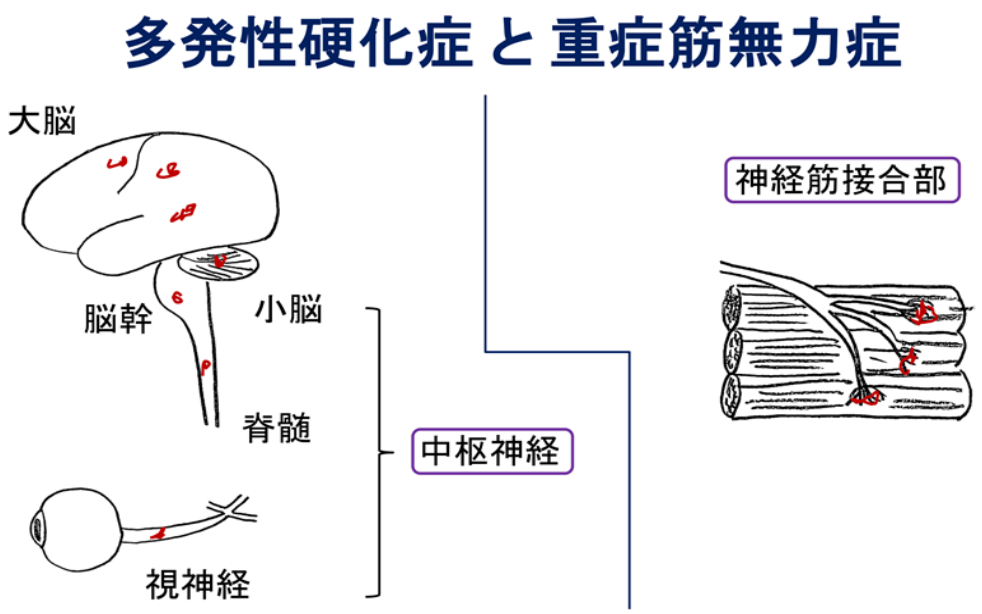
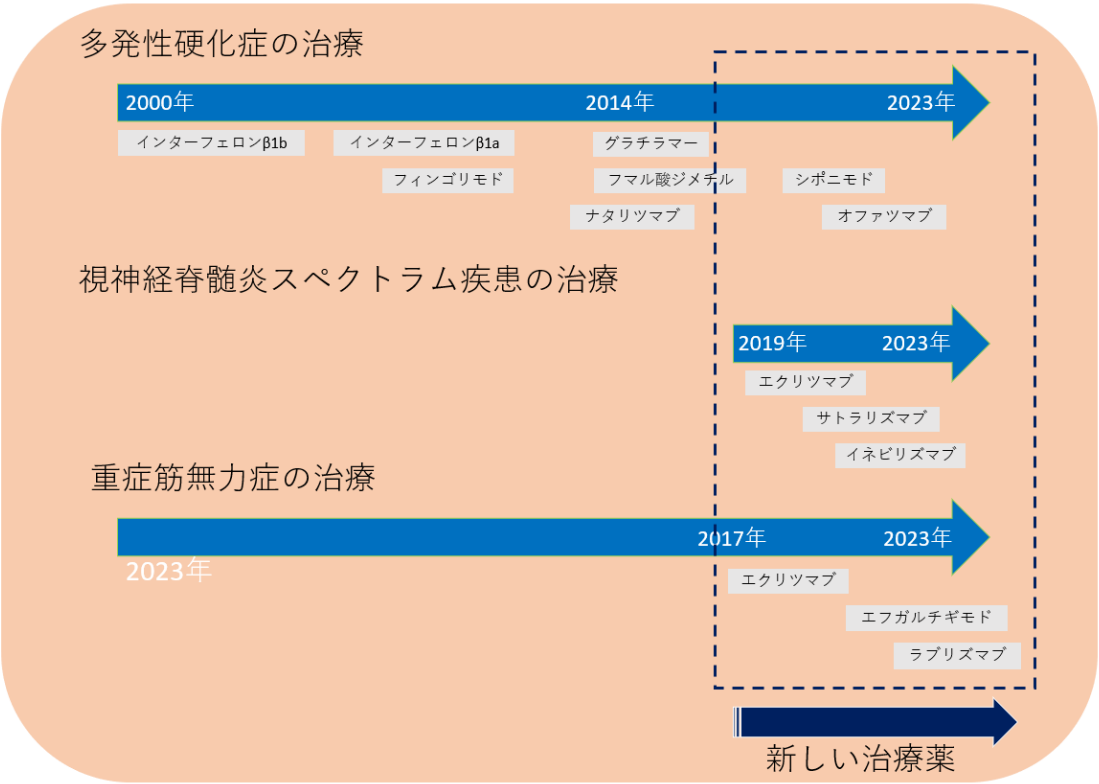


図１　神経免疫疾患（多発性硬化症と重症筋無力症）



【発行元】公立大学法人福島県立医科大学附属病院　患者サポートセンター
〒960-1295　福島市光が丘1番地　TEL:024-547-1885(直通)　Email:tourokui@fmu.ac.jp